

## 令和4年度(2022年度) 卒業証書・学位記・修了証書 授与式 式辞

長かった冬が終わり、花々は咲き始め、命の息吹を感じる季節となりました。この春のよき日に、ご卒業そしてご修了なさいます学生の皆さん、ご卒業ご修了おめでとうございます。本学の教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。

ご家族の皆様、お子様のご卒業を心よりお慶び申し上げます。お子様が生まれてから今日までの様々なことを、胸裡に浮かべておられることと存じます。誠におめでとうございます。今年度の卒業証書授与式は、4年ぶりに、人数の制限をさせていただきましたが、壇上のご来賓ならびに保証人の皆様のご臨席を賜り、ご一緒に門出を見守っていただくことができますこと、誠に嬉しく有難く存じております。

振り返りますと、今年度の卒業生の皆さんは、3年間、あるいは2年間コロナ禍での様々な活動制限のなかでの、学生生活でした。それでも、皆さんは、勉学に、サークルやボランティアにと励んでこられました。皆さんの創意工夫をこらした活動、忍耐強く取り組まれた各実習などの報告や実際に活動されている姿に、私は感服いたしておりました。その間、本学の学生や教職員は無論のこと、ご家族の皆様をはじめ地域の皆様のご協力とご理解をいただいたことにも感謝の意を表したいと思えます。

さて、現代社会を見渡しますと、新型コロナウイルス感染拡大を端に発した家庭生活や経済活動にも及んでいる様々な大きな影響。長引くロシアによるウクライナ侵攻による「核の脅威」を含む世界平和の危機。地球温暖化を起因とする日本をはじめ世界各地に起こっている大規模な自然災害、近々起こるであろうと言われている南海トラフ地震など、誰もが不安を感じる事象は、枚挙にいとまがありません。さらに、報道で知らされる「どうしてそんなことができるの」と思わず言葉を発したくなる人間が犯す様々な犯罪に、「人間性の崩壊」の危機をも感じます。そうしたことを考えると、私は力のない「非力な人間」そして「人間の有限性」を思い知らされるのです。

しかし一方で、人間という存在への大いなる信頼と希望を持つことが数多くあります。例えば、ニュースのなかで、トルコの大地震で被害をうけ、それまでの生活をすべて失ったと思われる方が、テレビカメラに向かって語られた言葉からも感じました。彼は、焦燥した姿でありましたが、「それでも、季節は巡り、人生を続けなければなりません」と静かに語られました。その言葉に、私は胸を突かれました。テレビに映し出された姿からは、その人の置かれている状態が、如何に厳しいかを想像することができました。しかし、同時に、人間だけが持つ、人間ならではの「生への義務」「この世に生まれてきた人間としての責任感」がその人の心の奥底に厳然としてあることを感じました。

トルコの方の姿は、12年経っても元の生活に戻れない「東日本大震災」で被害を被った方々の姿と重なりました。それは、不条理にも人生が変えられてしまったにも拘わらず、多くの人々が、忍耐強く、生活を立て直し、打ちのめされた心を自ら強めて、懸命に生き続けておられる姿です。人間性が崩壊されてもしかたがない状況にあ

っても、「決してそうはならない、そうはしない」、人間だけが持つ無限の「特別の力」に、私は勇気づけられています。東北でも、災害の場にあっても、人々は助け合い、少ない飲み物や食べ物を分け合って救助されるのを待ったと聞きます。トルコにおいても、ウクライナにおいても、人々は自分の事だけでなく、周囲の人のために、それぞれができることに力を尽していることが伝えられてきています。

遙か昔、古代ギリシャの哲人ソクラテスは、「人間にとって大切なのは〈ただ生きること〉ではなく 〈善く生きること〉だ」といい、「よりよく生きる道を探し続けることが、最高の人生を生きること」だと若者に語っていることを思い出しています。たとえ、食べることも安心して眠ることもできない厳しい状況にあっても、人間ならではの「尊厳と品位」をもった生き方・在り方で、「善く生きる」こと、「善なるものとして生きること」を求めるのが、人間ではないでしょうか。その自分自身の「内なる声」に従って、お互いに人間ならではの「生き方・在り方」を全うしたいものです。

山陽の宝とされている「愛と奉仕」の人、上代淑先生も「この人間の世の中には、不如意な事、不満な事、苦しい事、悲しい事が随分沢山あります。けれども、静かに心を落ち着けて考えますとき、祈りますとき、どのような場合、どのような所にも感謝しなければならない事情が会得されるようになります。感謝によって事毎に当たるとき、当然来るべき不幸さえ幸にかえてゆくことができる筈だと思います」と語られ、「善美なる生き方」を日めくり「日々の教え」のなかで、今もなお、皆さんに訴えかけておられます。

私は、もちろん卒業生の皆さん全員の、これからの人生が、平安であることを心から祈っています。しかし、大小の違いはあるとしても、何らかの苦難は人生につきものであると思います。しかし、その時には、どうか本日の私の式辞の一部でも思い出していただき、よりよく生きる道を探し続けて、最高の人生を生きていただきたい、ご自分の人生を、与えられた人生を、善く生き抜いていただきたいと心から願っています。

さあ、船出です、それぞれにこの大学で学ばれた専門的知識や技能をも活かして、「愛と奉仕」の精神をもって、人のため・地域のため・社会のために活躍してください。まだ見ぬ未来に向かって、力一杯にこぎ出してください。

最後に、ご来賓の皆様、ご列席くださいましたご家族の皆様、これまでに賜りました本学へのご理解ご支援に対し、衷心より厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

会場にお集まりの皆様のご健康とご活躍、そして、世界の平和を祈り、式辞とさせていただきます。

2023年3月15日

山陽学園大学・山陽学園短期大学 学長 齊藤 育子